

令和 5 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立紀伊コスモス支援学校 校長名：上村 弘幸

目指す学校像・育てたい児童生徒像

「共生社会の中でよりよく豊かに生きる人間の育成」を学校教育目標とし、教員集団が高い指導力を有するとともに、課題解決に向け組織力を発揮できる学校とする。
 目指す子ども像を「自分らしく豊かに生きる子ども」とし、個々の発達の段階に応じ、チャレンジすること、自他を大切にすること、思いを伝えること、役割を果たすことができることを目指す。

学校評価の公表方法

育友会役員会、学校運営協議会等を通じて自己評価及び学校関係者評価の結果について公表する。また、本校ホームページ上に記載する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。	(80%以上)
	B	概ね達成している。	(60%以上)
	C	あまり十分でない。	(40%以上)
	D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（2月7日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	全教員が、個々の児童生徒の的確な実態把握に基づき、つきたい力から授業をデザインできる専門性の向上を図る。	C	特別支援教育に係る基礎・基本研修の実施と教員間の学び合い	コスモス研修（12回）	A	年間を通じた研修実施により、特別支援学校教員として必要な専門性を担保することができてきた。	次年度も本校の教員として備えておくべき基本的知識や技能をテーマに、年間を通じた職員研修を実施する。研修コンテンツについて見直しを行うと共に、ワークグループ編成を工夫し、人材育成にも資するものとする。
			職員会議・特設研修による人権感覚、意識のブラッシュアップ	人権に係る研修（6回）	B	チェックリストの活用等により、こどもの人権・ハラスメント等への職員意識が向上した。	
			初任研と中堅研のコラボによる授業作りに係る取組の設定	授業作り研修（4回）	C	授業力向上においては成果があったが、人材育成の観点による取組の在り方については課題が残る。	
2	児童生徒の健康の増進及び学校安全と危機管理の徹底を図る。	B	ヒヤリハット報告や危機管理の啓発により危機意識を高く保つ	緊急時対応研修（2回） ヒヤリハット随時共有	B	怪我や発作、医療的ケアに係る緊急対応等について研修を踏まえ、教職員の対応意識を高く保てた。	感染症対策や医療的ケアの基本を全職員で共有し、各学部で随時の判断を行いながら学習活動を実施する。事故や怪我、ヒヤリハットの事例共有について、管理職から強く発信を行う。コスモス研修と連動し、教員の危機管理意識向上を図る。
			医療的ケアに関する校内体制を再確認し新しいケアに対応する	医ケア委員会（随時） 医ケア研修（2回）	A	学部を超え校内体制を構築し、学校看護師と共に対応できた。	
			変化する感染症対策に対応しながら学習活動を拡大する	学校保健安全委員会（随時）	A	感染症対策の基本を全職員で共有し、各学部で随時の判断を行いながら学習活動を拡大できた。	
3	キャリア教育・職業教育の充実を図り、自立に向け必要な基盤となる能力の育成を図る	C	キャリア発達の視点を活用し、各指導計画を立案する	キャリア教育評価シートを用いた実態把握	C	教員間でシートの活用に関する理解にばらつきがあり、効果的な活用に至っていない。	個々の児童生徒のキャリア発達を踏まえながら、個別の指導計画を作成できるよう、コスモス研修と連動し、キャリア教育評価シートの活用を徹底する。各類型でつきたい力や目指す子ども像を明確にし、教育課程編成に反映させていく。
			高等部で校内技能検定や積極的な現場実習を実施する	一般就労希望者の就職率80%以上	A	校内技能検定、高等部1年生時から実習を実施する。一般就労希望者就職率～80%（4/5）	
			キャリア教育の視点で教育課程における「類型」を見直す	「類型」の見直しに係る検討会議（6回）	B	「類型による教育課程編成」における課題を、運営委員会メンバーで明らかにした。	
4	校内の教育資源を最大限活用し、幼稚園・保育所等や小・中・高等学校への支援活動の充実や特別支援学校間での連携体制構築を図る。	B	学校ホームページを活用したセンター的機能の発揮	HP掲載コンテンツの充実（10項目以上）	B	HPに「コスモスしえんだより」等を掲載し、情報発信を行った。	学校ホームページのリニューアルを行い、センター的機能に係る情報発信を更に充実させる。特別支援学校と小・中・高等学校の接続を視野に、各校の特別支援教育に係る専門性向上に資する研修会等を実施する。
			通級指導教室や特別支援学級を担当する教員研修を実施する	公開授業研・校内研修会への参加人数30名	A	8月にサマーセミナーとして地域研修会、11月に公開授業・研修会を開催し計60名の参加を得た。	
			高等学校への相談支援活動を充実させる	校区内高等学校との連携率100%	B	高等学校の特別支援教育推進に係る学校訪問を実施した。各校に応じた支援策について確認できた。	

学校関係者評価（2月7日実施）

（コスモス研修）
 ・管理職と分掌長が打合せを行い取り組む研修は、他校にはない特色のある研修となっている。
 （人権に係る研修）
 ・チェックリストを自校で作成して活用しているのがよい。
 （ヒヤリハットの随時共有）
 ・県内の支援学校や全国的な平均がどのくらいかが分かれば自校との比較検討が進むのではないかと進捗度として「B」評価としているが、「A」評価としてよいのではないかと。
 ・「ヒヤリハット収集と分析」は素晴らしい。いじめ防止対策推進法でも未然防止が大切といわれている。ヒヤリハットの取組が繋がる。
 （キャリア教育評価シートを用いた実態把握）
 ・他のシートがある中、簡潔な良いシートになっている。キャリア教育は、小中高の系統性、連続性が大切である。退職後のリトライも含めたキャリアの視点が入ると良い。
 （一般就労希望者の就職率80%以上）
 ・校内技能検定では、生徒全員が一生懸命に取り組み、集中力、モチベーション共に素晴らしい。
 （「類型」の見直しに係る検討会議（6回））
 ・類型に子どもを入れるか、子どもに合った類型にするか。指導内容等も踏まえ、今後も進めてほしい。
 （HP掲載コンテンツの充実（10項目以上））
 ・HPへの訪問数が多くてびっくりすることがあるので訪問数のカウントを是非入れてほしい。
 （校区内高等学校との連携率100%）
 ・地域の中学校特別支援学級から高等学校への進学者が多い中、高等学校における特別支援教育はまったなしとなっている。センター的機能として特別支援学校の知見をどう生かすかを考える必要がある。公開授業研に高等学校の先生が3名参加してくれている。このような取組を今後も続けてほしい。
 （その他）
 ・良い取組を見させていただいた。先生の努力の結果を厳しめな評価にしている。子どもが一人一人活躍できる場を設定してくれている。地域の方々と共に共生社会を目指してセンター的機能を発揮して欲しい。